

幕府江建白象山先生自筆 完

特別

カ1

4232

55

60

65

70

75

文久二年壬戌九月公遷江



門力
號 4232
卷

真田信濃守家米
佐久間僧理

昭和二十六年
二月八日
購



乍恐謹而申上、私儀陪臣、身分殊、久々蒙
御答、能存、老、口、居、之、も、當、力、下、の、以、為、聊、
思、見、申、上、度、奉、抄、私、儀、乍、不、肖、切、身、も、漢、籍
を、讀、之、我、を、心、掛、け、罷、在、所、先、之、人、信、濃、守、に、加、判
之、列、被、仰、付、海、防、掛、を、蒙、仰、初、私、儀、内、意
等、私、儀、に、防、海、之、要、彼、れ、を、熟、知、し、より、先、ある、
なく、一、是、も、歐、羅、巴、法、州、の、記、載、亦、已、彼、れ、の、紀
綱、等、事、兵、制、民、俗、何、も、一、記、憶、在、在、願、向、の、用、を

及以去々々分、随以防海敷我の階梯と成りて戸を
を興しんと心掛け清朝の同文韻統の倣ひ

皇國同文鑑を作也其大洲中の語を通しり但し
和蘭人々互市 所許客の國を其國の書は未
も多々天文地理醫術砲兵の學を爲し去る皆先
和蘭の書を讀み其に付和蘭の部を、荷蘭語彙
と題し刻しり度己酉の冬より爲る態に出入仕序
凡例等書添、草稿を以て板行の式を伺、所年を越
えしり所著國を以て依て阿部伊勢守棟近羅出也

西を以て夷俗を叙し、夷情を知りしより先あるいか
く夷情を知りし、夷語に通ずるより要あるに、又其
の先務も彼れを知りしより專あるを、當る海防の
先務も彼れを知りしより急なるに、是を、海防の天下
海防に付き天下の人々悉く彼情を知りしり度天下の
人々悉く彼の情を知りしり、普通、夷書を讀ませ
し、悉く其の情を知りしり、普通、夷書を讀ませし、
志くしり、普通、夷書を讀ませし、其を、詞書を板
行し、先著の書を、尚ほ其細其得失を、りて、
りて、所成、年四月、及び、逆、右詞書板行不

お成趣の差圖を有府大に望を失ひ去り、近東江
府近海砲臺並に所立の所を越へて見歸國の
仕と存し立江の島鐘倉邊より洲寄松輪鶴等
浦賀猪島等諸家横所預りの所を場十箇所餘
、代手寄りと以て内々悉く一見仕所 公邊を定
て、少力をもる畫諸家横も隨分少國力を其具て
少取立を成ると存し、少場十餘箇所をも悉く少
實用にお成り、結句外國人の此言は致しき 少國威
を損し、少容體、付の外の我、憤甚は物止

心得を存、海岸臺場の法則并に江府 少都城の少
為真の少備と成、美等海防少掛り、老中換込上
仕度極密右等稿を以て信濃守、内慮も何の前申上
方お成り、少とて重き業、而答、近七 少國恩、
報し、少人為、上書仕度も、少奇特の志、少其前必折
と可有、少度、此方別、存する、子細も有、少動之、
存し、少官、少付、少存、少是、少能、少在、少内、少川、少路、少
尉、少大、少坂、少町、少奉行、少少、少動、少定、少奉行、少少、少轉、少役、少海、少防、少掛、
り、少を、少其、少業、 行、少九、少衛、少門、少尉、少度、少美、少少、少窓、少意、少少、少下、少義、少且

西軍利加よる明復難題を可中出よの戦壬子の冬専ら
風説の存存信濃守又物も可方とて此節の美を
存一と方並ての擬上書草稿の同人を待密掛の目
所大の難多ゆふて是程と云ふ有と云ふ是程と云ふ
有と云ふと云ふ東の信用の體を以て自性道
を以て實驗を以て疑念の存上は不な是れ去る内
に又思ふ合はれぬと云ふお上り我の存然と云
癸丑六月西軍利加船浦賀の所來破る本牧浦と
年乃の二乃て右擬上書中認め宜きと云ふしお遠を

り付て存其百とて九生門尉後にも先見の明感や一とて
稱一と下と云ふ計書は義皆 所の後意は感何の神と
多うは強念と云ふ其時存と云ふ其下當てと云ふ其な
を以て海防の美程と九生門尉後と云ふ尋も有と又阿部
棟上書は其初めと下所私に授授は明公此等
公邊の以用ひも宜くは建言も能くは行はれ子と云
以尋に付りて愚見明公の以心得は成天下の以密用
と云ふと云ふ本懐を以て上更と上書等侍を名を劬を
よ撞疑をきと云ふは且感歎する所と云ふはと云ふ詳止

美、ハ、何、終、と、其、時、務、の、後、に、及、び、亦、過、り、改、正、
墨、利、加、に、行、近、差、の、存、就、て、和、戦、を、論、じ、人、
を、彼、邦、へ、も、其、形、勢、力、事、情、委、し、く、以、探、索、し、其、を、
以、急、務、に、有、り、は、ち、ち、な、孫、子、其、法、明、君、賢、將、動、人、を、勝、
ち、成、功、無、く、出、る、女、人、一、而、て、敵、の、情、を、知、る、もの、と、い、は、
此、義、に、し、は、此、義、何、れ、と、違、り、成、る、と、い、ふ、所、其、方、天、
阻、す、れ、て、此、帝、右、所、の、義、に、中、に、建、言、出、来、難、し、と、い、ふ、右、
付、私、に、い、ふ、當、方、の、以、有、種、儲、^儲難、は、し、き、以、芽、に、明、公、の、
如、き、す、と、改、め、ぬ、と、其、他、誰、を、望、し、し、ん、結、し、以、書、用、

の、有、る、に、知、る、角、も、某、上、書、は、度、ち、取、次、に、下、ル、に、當、
今、の、以、急、務、十、箇、条、認、ぬ、伊、勢、守、極、と、美、と、交、り、せ、し、
其、十、箇、条、の、第、一、は、美、向、き、し、人、選、を、以、て、バ、タ、ヒ、ヤ、邊、近、洋、船、
の、買、上、り、用、に、行、付、り、美、を、度、た、り、以、船、備、早、速、に、
以、測、り、し、其、の、こ、ろ、を、以、て、其、往、來、の、間、外、國、港、に、備、置、の、
形、勢、也、と、實、見、何、れ、と、以、心、備、に、て、其、成、と、い、ふ、其、終、始、
聊、ら、以、采、用、と、い、ふ、は、し、孫、子、似、要、國、は、漂、流、し、土、州、糧、師、
の、恃、乃、に、即、美、其、以、と、以、大、法、を、以、て、禁、錮、に、行、付、置、し、所、
此、度、重、國、早、中、興、を、以、て、以、守、の、心、也、と、い、ふ、以、心、也、

あ成の風やうを付私を好む如く外國の渡海の
の國禁の地めあ成の青聰を以て弱達一にせしむるも
の國禁の地めあ成の青聰を以て弱達一にせしむるも
あ成の如くいふものにて倣ひ漂流しその重利
加る他の法州に後と些少問才識の存して彼の形勢を
情聴を探ふは一に能得りし一に産の所用に多きを見
漂流しその得る邦禁をも不弱と存し一人の内
一人ことし此等の功を立すは度吉田寅次郎とす
勸の漂流の成り渡海はせしんと企て、其行遠は遂

の味を蒙りし味中禁獄。 行付は是を合し思ふを
其位踏之言其ふ過ぎ考すも其規に合ざるの故に
恐るるを以て一も海防の義に他事とも遠ひ
所當家様一代のの榮辱を以て禁獄。 皇統の御老
も係り付既其義を以て禁獄。 行付は其の如く
一も尚已むる思見しその付上事考の美腹稿
は筆墨借用を願ひ、やま不れ成趣不ぬ是れのみ
寅年九月の裁決にて在所表熱意居。 行付初の能
正て二級重なりて縁者と雖も容易に面會不れ感

付右腹稿の上書轉達形にて申上り候べき事候月を過
し一月内サレテ寛やうに申成しうと存し一月天下の
公邊と上書は度趣親類のものをもて重役共と
申上り候一概申成候趣不办是取丁巳十二月之堀田
備中守横河原敷に於て西國のコンシエルト申應接申
上り候港を開き土地の借与可有候在取候と申候
移し候趣傳付仕候程 京師に為 上り申書者申
上 京の所四月朔日開港并に土地の借与に候
勅許候事候備中守横河原敷に歸付候事申早くと

承知仕天下の申安危候事候申候れ候と深く痛仕仕
可故 勅達申遵奉候事候外國の申遠約に候
此義も容易に相濟む事候又外國の申遠約を候
申上り候一に申遠 勅に申候申當り候事候
の道に難義に候の申儀と奉存遠に候事候存し付
き候所當信濃守在存留守に申候に候所竊に
志の重役の者申候申候一備中守横河原守に候
要人に申遠を候事候此等の人と上書建候に候
所計に候候此業事候 申上り申用申成候に候

公武の合體にて 所國威を所十分にお立ち彼れ曲を
負せ此所方と理を直くせさせれしと或は付世界萬
國の爲計くも隨分天晴の所處置し可き事と存込
に疾速に上書案文を調二人急用出府其取重
彼共も送り送る所其間、邪魔する事行り此後各
ひお近ひに備中守校の邸存し上五人七又、所應
按り可き事、所と折角と苦心付業果又徒ら小
畫餅と成、此等と、度々天下の所爲愚構は計
策の内此度の策の、實まじり人家一層の大功と

信度天下の所爲も一層の成績を貽し、人を存し、
所小人との隙得、逢ひ期を延し、之聽し、入り並ね、
至千載の遺恨も可なり、そ亦私を折角愚忠を盡し
其甲斐もなきと致し、人も氣の毒に存し、川路を
内使を以て此草案一見は、宜き給ふなり、越し、
事、所、所、内人よるも備中守校と、所、月、掛けられや、
か、不相分、此策只、か、成、所謂十日の菊、所、存、
と外國人の所扱、信て是等の意を、所、扱、有、
奉存、依て右策一通、又、所、覽、古存、込、一策、行れ

不中・存幾度となくもや止しし人と存しひあるも
天下を一家上下二體の道理を志して何れ相忘れざる能
くは掃部頭換心大老職中も聊々と言は度多し何れ所
て道を得しに其内偶の年早打の小銃を存し付し
有之圖を利し流し命し出来のと親戚の内是術門
人しり付し其老を以て種々打試させしは頗る便利
故 所習中も下も 所武備は於て萬一の所裨益
とせば成し責て 所國恩を宣し不仕し所も當
しんと右圖録を以て 公邊一獻と仕度し出所

之家に聴き付留守の去を以て掃部
年を差出し官所相立身六月に及ひ蒙 所答
罷在考より獻しもの等不お成し下中右圖録
下けお成し右等の差して天下し儀を志しし事
いふ事一も實に奈何とほしき事し唯下し
所代の形勢を奉觀察罷在し内當六月中 上様
し 所貴儀は為在従来し以弊風し洗 所武威
遊 所振張 會國を世界第一等し強國と遊
所偉業は後為立し 宸襟を為安下し萬民

安堵はしぬ 思ふに何と厚く奉得其意
所望事向所望事草の節と名見込に就て可なりし物
不憚忌憚 國家に所為草に相心得心庭を盡し
了り上より旨の達し有り尚又閏八月十五日 所大政
所改革者勤交替に所規矩迄所改め所式備亮
實の如きの 上意にて方今宇内し形勢一変外國
の交通に 所羨望の成に就て全國に 所望事
一法しとせし難お立ち上下學を心力を盡し
所國威 所更張の遊度 思ふに銘見込

趣有りしに奉伏藏中迄心付て所存在方故 所望
趣屏居し私儀近追々奉傳承并座に於て白のち
中丁に所望事に心地難有し奉存六月廿
一日に 所望事とて郡國に所委任して所望事
の以達しに微末の陪臣まで奉存乃ち儀に奉存在況
や私儀久く蒙 所答奉存自身分として天下の
所大政關係付裁り奉存奉存乃ち裁り奉存
前文長敷を願ふに所望事とて通私儀に微賤先之人
所加判り列蒙 所望事とて通き裁り奉存とて

天下の心為毎々苦心計畫は遂に又夫に依て重き
所終を考ふること其 所終中一難也 所國恩
神々も忘希はるに種々苦思も付此度聊々
存付て我共奉り上と度々人をして言を不は者業
の余擇も成りて誠以幸甚と推難有は各可々抑
も曲りてものを矯て中を就けに必に中を過きて程矯
のこあつたれを曲りて直りてぬるのこつはるも矯め道
きつて道中を計りしに中正といふこと中正といふ
節に一旦其效あつた如くして中にも亦遂に其弊を免
るにやと奉抄江府を在りてその承を以て自來

の大成向の事業を諸家横に供連珠の外に滅少の
老中横方の登 城塵の二騎也騎位を以て道具等も
をりてを見うけしとて我輩初傳聞は此傳とのよ
し存在し所再の田根の事承にたつた密事なりは
り好いらさるは是道諸長横に府内は地廻り供
多勢の連に戦國の餘風を以てて補要を以て
をりて一もおのつくり上下尊卑の事叙しりよる者
凡人の可成丈の者果はたつた尤も極の事なりは

一と天下に 所大政を以て執る方横山道具等と
その君事士曰れ三騎五騎三の登 城の遊と
美果一と實事一に誠を觀聽致す馬より一と致し奉れ
下世何等の縁故を以て右等の連歩動の在い傲
亦更に解一のの我奉れ假令の登 城等の供
不の台連して元来供助の士卒其儘罷在り或は
其費を以る者等の為とい固より有り世に教又法
良横方始の富貴にせ立て成る方横の平の馬
の始末も多し人信よして門外に出馬の使を以て

供連多きころ所押の身一の始末六ヶくい付
此等の節の差支を以て此節の押一とを
遊に以て使つとて有り所加判之判を以て為家
所社の所方横是式の義並つて心得て有在又た
と云ふ富貴の生立の一分の所成を以て許し其助
り中も世の觀聽を致すに竊に鍛鍊並
方所居る所に於て如何程に中事と有る又所
扶助の所士卒供も亦其連其假を以て文武業
を修めぬと一と趣意致し奉れ所貴重の

方楨のいふつゝい發言衛守禦の事なるも當
然の事なり家来の内外常非常甘言君を勸言衛
守禦すは是又當然の本務なり序文武修業の節
と不釋一も言然の本務不此一も亦おのつゝ等差
あり多と事あり其上より一法を以て供の衆又或
志に依ひ常用の書籍一も美懐一も死生に供待の節を
蓋の雜談未停の懐中の書以籍不出一も各獨者傳
し又志を共一も一も互に講習討論任と傳手
次第は一或は測量砲兵等預置一表後一教持衆

常々目より狎と語記は相勤の式に廿二所並抄
一のいふまゝの世話の事なり一供と出と即ち與子整
序はしむれは文武共一層の家の中の進言を感す
且も供者のものいふ非事の急に馬り使共君臣
の支度を一時出揃ひサーも後進ま、もの等々序如之
の法に成る、供向の方より武備の一端として有るは
亦一も禮法を以て外に供向に減少を以て義者も禮法
といふ嚴守り進上武の振興といふ良策如何程と有るは
奉存、公義中威光といふ存上り此の棟以自ら及る

在行せしれ所の事業盡く直道にあらざる何の
 凶怖も不効在掃部頭横對馬守柳井等其事の
 例外なきに勿論の義、之中一も亂心者徳家者、
 ソソツモの所、何とも難、一、以て、城を以て、
 リ、以て高抽井、以て、從揚丈の、以て、式、以て、供、以て、
 當然の、以て、事、以て、事、以て、此、以て、事、以て、事、以て、
 成丈の、以て、人、以て、減、以て、以て、以て、以て、
 餘、以て、以て、以て、以て、以て、以て、以て、
 帝の、以て、舉、以て、節、以て、減、以て、以て、以て、
 帝の、以て、舉、以て、節、以て、減、以て、以て、以て、

歐羅巴法國の大統執政又、
 本邦、渡米の、ミニストル等

の貴人外出、産々の、從僕を、連れ、多くの、人数を、要す、
 以て、現、況、及、面、白、き、事、を、思、ふ、
 以て、本、邦、に、も、其、
 風、習、を、せ、せ、し、め、
 然、左、如、の、以て、儀、も、
 其、未、を、本、様、に、
 夫、故、に、又、以て、政、
 彼、國、に、以て、農、工、
 夫、故、に、又、以て、政、
 彼、國、に、以て、農、工、

其才能學術優長にして果して衆に出で時を登用して之を
ストルも執政にして大統領にして之を事なり中を去れども其
職を罷めり一奉貫の紙歸り、故其職に居、時常使
令に供して多く皆其國に属し、胥吏にして其家の
を辨し、為の奴隸に重くの事とお見え、右故私用の
外は、其雇の奴隸の物を従者たる連れ、事なきは
是其國體政體の然らざる所然らざる事を得、
皇國當り、
形勢を全く漢土に代封建の制
同然とす。大朝の政を執り、即ち諸侯制に

ヲ能く諸侯制にして高柄の人数をとり、持て定めて軍役
をとり勤、事少く分の致、すは、その力持、人数、年
の杖、助の者共、付内外常服、事共、
守禦、に備、事、固よる、
マシて、
城、の論、の地、
の在、
塵、
う、

を以て不敬を思ふもや富貴を以て奉好む者なく
是等の心過をあるは徳を失ふは矯むは儀を以て有る
を以て中正を過きさせぬは儀を以て必は又弊を
生じて了すぬ、漢の高祖天下草創に當て志を秦
代の儀法を去り每事易簡を以て從ふ所やうて羣臣酒
を飲み功を争ひ劍を拔て官相を擡ち、の弊を正し
、事漢書に詳し、之を以て此節を以て即舊弊を餘り
、痛くする矯中正を以て其弊又不測を生じて
と恐懼傳ふ、之を以て兎る富貴を以て形勢を以て成てハ

和漢の品を以て統用と云、計りて之を以て是れも
五世界を綜括して以て参酌の爲に在り、之を以て不爲
清一とも及び以て精密と以て折衷、即國體を以て
條、以て政體を以て正度と以て之を以て貴賤尊
卑の等、天地自然禮の大經有り、其の以て身
獲術の儀法の在り、是又禮文の當然とて、客れ
ざる所と奉好別して、皇國に於て貴賤尊卑
の等殊に嚴ち、之を以て深意を以て、之を以て
奉好、此深意能く以て勅諭を爲在り、之を以て傳

開信、以、命

御大政、は為預、而方秋、と雖、と多く、

以綿服をり方、と、所、是、別、ち、國、考、る、時、これ、

示、す、不、儉、を、以、て、す、る、の、以、美、意、を、奉、給、一、と、是、又、

恐、中、正、過、き、せ、れ、而、依、り、以、政、體、の、以、上、と、

不可、然、又、其、弊、害、端、的、出、来、り、と、奉、給、い、

之、中、に、衣服、の、制、上、下、法、象、あり、て、尊、卑、を、標、顯、し、

法、上、欠、く、一、と、大、典、と、す、れ、去、れ、こ、と、虞、書、に、詳、

て、我、を、載、せ、れ、太、平、二、百、餘、年、從、て、易、簡、を、

而、大、政、故、是、と、服、色、等、の、以、法、と、正、て、以、簡、

下、也、と、様、と、麻、の、御、上、下、被、為、り、下、輩、の、侍、町、人、

と、麻、上、下、着、用、は、國、柄、の、裁、漢、土、文、物、の、邦、限、

世界、萬、國、も、是、を、裁、り、新、く、法、外、着、と、以、文、

社、在、上、の、衣、と、服、色、の、御、制、度、以、正、し、遊、以、從、

と、書、類、に、各、其、人、を、以、力、選、以、辭、命、以、飾、

を、以、回、之、散、在、て、後、代、述、外、人、の、傳、

を、以、是、述、也、更、之、苟、

簡、を、以、為、尚、法、在、拙、方、以、綿、服、

を、以、事、天、下、甚

不肖奉厥職と奉ね其故若くは古先聖王衣服の
制を以て尊卑上下を標頭とす治法の大典と
たりせしむれば且その富有高貴の方極して亦綿苧の
粗服ありし時其の下風より立ち上中の方より此
服を言成存時其亦綿細はより以大抵年々天下
定教よりゆるゆる其の貴賤のよのよ引はるとりて其價
端的に引揚り遂に惑は者少なきより上是述上
方を始め**法**國にて續綿を織出さるる事と傳り
狩り生るる衣は生れりて其苧も充苧も下

宜其差の勤ききき其の所處宜し可なり在り
其利度は不相き一は後衣の方極し其後衣の儘と
上下の所標頭とわち上下に真の其節儉の道も付き織
工苧を差を失ひの患もなき其時其の元の高貴と
なき所謂弗費の**大**其とす上文の儉約の所趣を
を専らに示す所依りし其後衣を浣濯補綴して
らわたりたりし上下貴賤の法別も明き
其儉徳のよも歌りき布紳苧の價騰貴は下
苧の賤者賤其の恩惠を蒙り其の裁下り

を知らずくはてしなく此我天下に響ききり其細くはてしなく
し即熟慮を在る度し御と奉り此非常の改革の時
に 昭色し即制度し御名のし更定を何とも急し即
評儀を在る度し思ふ事企望し然し政治に或れ孔子
聖訓の通りをたし御まし人をたし御得しと云へんは不
に力叶多く其人をたし御得しに近遠に似しと即教育
をたし御外をたし御人材を得し畢竟此一路の外を
、故帝典に曹子を教ふるの法を詳しし周禮成均の
法専ら國子に教ふるをたし御公卿大夫の適子

子弟に國家と共に相終始し、よあてこれ才徳兼善に
一に國家の法に從て善くこれ友し一に國家の上を
に憂慮すしきのや事出て来ると、右故に唐虞の昔に
此教を慎み水や事しとらぬ終るを、即古^家樣の法
の大成をたし御執し、たし御法に抑え其他に重き御
節に皆し御族本よると御人選りたて曹子を教
ふるのし學子政是と聡と不た為立しと思し御典に奉り
、右故に法に抑方し家に依りて世子のし輔導守節の
外に等御し學子術のし擇むとを、御督責と嚴か

く次道德の士に親近して之を仲し其の尤右と善く處を
事なくして以氣隨して成長し成して之を趣是皆
其老職のもの不行ゆき歸して之を存くとも抑て
論して公我の學子のまじき者為及故とす好此改
革の期を以て何卒の學子以て親親の在りて
諸侯地方世子の輔導の念を有るべき度とす
其の世嗣の定まり子に勿論して子弟を賢良方
正の士其の尤右と成り假して邪佞輕薄庸妄輩

を問ふ衆錯も事を得て其師に如く學術正しき
ものを擇んで勤學し之を此と仰出の小派で
是と云ふ及子に其の限に應じ良師良友を擇
む其才を成し其有るべき度とす尤右の度と先
第一公儀細字に用ひのり學子術を以て正まを以て天下の
學術皆之に歸し其に向有るべき度とす學術は
之を以て時法を以て抑するべき度とす之を以て
上徳の要路と進んで成るべき度とす抑する間
於て天下國家の大なる利害を有るべき度とす之を以て

學術一は、初よりと、素句訓詁の末節を、
道徳仁義孝悌忠信等の教、盡く漢土聖人の
訓、従ひ天文地理航海測量萬物の、
高法醫術器械工作等、皆西洋を、
長を、
皇國の大徳子問を成し、
我、
四書六經

聖人の遺訓を、
學の正軌と奉り、
凡天下の三才、
の世に於て、
たす、
有るを論、

此大綱領を、
公、
此大綱領を、

根奉り、
凡、
一、
凡人材、
淵、
只、
奉、
と、
て、

少府内をうることも夥しき事とせぬし教導たふは行
の徳もその者共とくも多し良民不事を得る身の職
業を以て何の世の用とせぬ成をたふを以て誠と徳を
一く惜むたふを以て歐羅巴西里利加法國の記載を
讀むと二年分死囚の數全國國民はこうけなせ甚富
く仲々令く教導に念入るを教とせぬ其の民の性
自國よるを重んずるも又自國の民性の役れ
あり不善あるも固より之を以て學校の建て方を教
ふも東西諸蕃の制宜く法存り一徳てて仕方を徳ひ

教へ導きしにゆい孔孟の正道を和け論し不善事を
せざるは法し農工商賈も其才散のみの別先
つ窮理の初歩を教へ其才に應じ法學子科を以て
させぬ仕は天下の刑人數を減し有用の工藝
追々興るは其徳く天下の有益ありは法
法又教へ導きしに孔孟の正道を以てし内第一
孝道を先とし度孝道を先とし第一喪服の
以制度を以て正し事も大率と奉り大戴禮を以
て不孝は仁愛なき事とせし仁愛ありは喪祭の禮

明くしむるに生ずる喪祭の禮に仁愛を教ふる所以と在
り此義とす有り喪服に付て、聊く拙著に在りし忌諱に
觸れ、或るに付て、飲と奉忍惶とすも善く思存の端
とす付て、付拙著喪禮私説成服の条、深出奉入の覽
し、孰覽し、し、宋擇し、し、或ト、し、天下を其に或る
存、依り他す、し、度、し、辭命と稱呼との、或る
斯く五世界法著し、し、交通の在、し、就き、し、辭
命、し、の、入、し、念、し、の、仕、度、す、し、辭命善く修り、し、
他、し、ザ、し、短、處、す、し、其、し、神、し、し、又

而國勢とよみ張る、し、辭命、し、其、力、多、く、し、奉、り、
春秋の際、し、當、り、鄭の、し、國、を、以、て、晉、楚、之、の、間、は、き、れ、
其、兵、禍、を、受、け、し、強、と、を、處、置、け、し、を、子、産、政、執
り、し、及、て、辭命、に、あ、り、し、れ、を、其、大、志、を、免、れ、し、事、の、難
きを、知、り、し、稗、史、子、太、叔、子、羽、等、の、名、士、を、選、用、し、草、創
し、禮、儀、修、飾、の、任、に、充、て、尚、つ、し、是、に、潤、色、の、功、を、加、
し、法、度、定、密、交、通、の、間、に、施、し、し、及、て、毎、年、敗、事、あ、り、
たり、し、定、公、獻、公、襄、公、を、存、り、し、五、十、餘、年、の、久、し、き
兵、禍、を、免、れ、し、社、稷、人、民、に、し、依、賴、し、て、保、全、を、得、し、

事全く辭命を修め功とらなり一此等其器當
り者以選擇子產の意に爲る位修むる以故事を
以て以有るを及せり所稱呼の義とあり此日
御勅宣の寫とありの拜見傳依託の品も二誠幸
の又自然真の 御勅宣の所存時ハ假令

天朝を以て 仰ぐも御稱呼を以て官 所國體を
中よるも 所政治の上を以て上とても徳を有るを義天下
國家の以て爲大損を以て小益なきを深く憂
惜はたざる所其理解能くハ 仰ぐ向後外國

と有りて我秋夷狄と稱呼を以て其有るを度
考むらん^我秋夷狄の稱ハ漢土の中つ國を以て四邊の
外邦を以て稱して代々の歴史 所本邦の如きを
も東夷傳に收めり是に合く漢土の彼れ如く發く
聞け代々聖智の王者出ると此賢才の臣下と多く此
後ハ人倫の教も明く禮樂刑政制度文物形如く備
り故に倫理綱常もよく文字の教もよく由りきり邊
陲の派をも禽獸虫陸禽の如くも思ふ故に我秋も
靈貉も呼ぶるも事なり其ハ僻と遠と常と威

日本邦の如き綱常正しき君子國近を夷狄と
し漢人既に誤りて之をけり終ると日本邦も又其
誤りなりしのみ官外邦他國を敗し學術技巧制
度文章早けく此方より備りて之を有力の大國以て
狄夷狄と稱呼は在る甚し何の所儀と奉り
而勅宣として世に之をせしむる一外蕃傳播は
ききしきし其常のつて諸大邦の如き起り
而損ある日本と有りや左と云りしはも
天下の 所大政と 御委あはる為存り 東府小

於て所文通者として國々の使節官人と皆其の禮
禮を以て之を待て之を下と密狄と 而稱呼は之
と以て都會の所儀と有り古来日本邦とて夷と稱
蝦夷と稱し之 日本記に蝦夷と云ふは 征夷の而稱呼は之
夷と出ると日本邦と於て夷と云はる國蝦
夷の外に之を他其他の諸蕃と稱し之を右族と
往古任那高麗百濟新羅と夷と云はる朝鮮琉球を
琉球と夷と稱し之を之を朝鮮琉球を
きいて夷狄と稱呼はる彼の小國たは之を

受て下りてく況や東西洋の大國をりて夷狄の所
一に其の禮を唯此の國の所を禮に當りて之を奉りて國
語をまれ我狄の言は軒僥にして今更に讓るは其血氣
治まらば禽獸の如しよのたまふて貢物をつらぬ
馨香嘉味を供はるに故に亦其門外に坐せしめて吾人
に其牲を禮のまゝ委ねてこれと云ふ一むに之をいふま
禮儀の教を知りて進退上下の別をわく禽物等も
んて血氣を任せて馨香嘉味の調理を供はるは
唯此の國のものなり禽獸進一とて是亦門外に坐せ

しと狗畜物をよく扱はるを理あるを又我
狄の方と於ては其稱呼を甘んじ其禮をなすはて柔順
故に子細をなす事なく其所當を諸蕃の使
節これに門外に坐せしめて其の所當を應じんとす
納得はるべきや吾ら此義納得はるは夷狄の稱
決して納得はるは唯納得はるはのたまふ其
所不當はるは禮の所奉りて其のたまふべきを深
く氣をいひせり故に亦其外蕃の所扱はるは亦禮
に屬し一は亦禮に屬し亦禮の二つに一は存くせざる也

學子あり精一しく山澤に遺材ありこりたり廿四
百工の職あり力學子器學子を知り人力限りある
あり度此度括測し 思召をん 仰大政の改革
あり度、就きてさし府内の遊民を始め各其職業
に有りき、法の趣法あり、倫のありたりと
一も 仰奉邦にて只今遊民の第一とす、佛氏の徳に
り仰り凡そ天地の間、サは男女となり此身ある時、必
居る所の分位有り、分位有り、時、必ず法むる所の職
業あり、然る故に天地の間、其職のものとして一人として

苦の事、仰り、右故に若一人を職を守り、その有
るに國家天下を保ち、よめ、其陰よ其害をこ受る事
事、仰り、 皇國の人口外國の割合を、
惟此の小國を以て 魚子西面漢土西里利 佛寺の教、
十万余あり、其寺内に存る所の僧侶多し、數十万人あり、
き、十人五人乃至一人あり、
農事、
て飽食煖衣する事、
務め、

今世於万宇：進き寺、許多の僧侶も身を託し
寧ろく世との赤教布帛物材を耗糜し、是天下大
其病害を陰よりして、以國力大に振ふを得
さる根元とすなりある以時節と成 上様所被接
は為在世界の第一の以陰國、其進を思ふて此路
の以始未付きありて、壁を以山を作し九田なりと
歎し之備より土石を崩し持ち去り、かく又井を
掘り泉を乃んことを歎し、随て出沙と其め、
許多の歲月とらる積りも決して 思召る為

報、以時節有り何の教を以去りと佛の美、年
久しく骨髄の、病害の致、付念卒過劇の以、
等の存て、これら為、忽ち大害以引也、
一、久漸の病、久漸とて、治め外を、以觀念の
力在先の邪説の亂る、能り、正理を以、以法を
と為、互を以て、以持、久の遊、以怠慢を、向、小と
積て、大、以、微を、積て、顯、以、終、其、功、を、
為、修、極、有、以、度、を、修、邪説亂る、事、能、以、正
理、と、天下、佛、依、以、儒、禮、を、以、祭、祭、は、

即免許は其在と度僧の法を嚴せざるれとの
戒は其度僧の法は往古大政治家に度牒を授
けり法を其度僧の法通り嚴重せざるれの一
二十年を出入りて僧徒の數大に減して下たる其
間情願を以て度を受けし僧は其行も必は行下有
りたりし其真の佛道の者も敢て其行を其
ゆるがし現在僧は多く出家とせりしかる出家は
其に貪冒行穢の行に在家の俗より甚しきも
有る其期に其教多し其道に感とす

一は其行は高く其學より所際く其流の人多
くもその道の者も其佛氏の學儒者一概邪
説と破し一もその寂靜と其の所念く孔孟の
教と別派と一も一人益なりしり一は其且その
説く所多く列子の言ひ又列子の説を西洋實則の
理に叶し所往有り是皆其心得ぬりて地不
東西の別を世不古今の差ありとす既に人益
なきありは一も其書を以て其其人の世
用あり所有り世に益く世に用あり所有り其

是を存し、も亦妨をりせず、又、何れ但、只、今、の、儘、之、治
差、可、り、て、天下、國家、の、害、害、大、方、なり、故、に、國、力、の
振、り、期、を、り、何、れ、自、是、水、を、り、良、法、を、り、此、大、害、を
以、り、除、底、事、也、孔、孟、の、教、を、り、忠、孝、仁、義、の、道、を、り
怠、慢、を、り、凶、刑、導、有、り、喪、服、の、凶、制、度、を、り、更、張、を、り
在、り、天下、人民、大、凡、其、向、を、り、所、を、存、知、り、其、所、在、
儒、葬、を、り、情、敢、任、也、何、れ、成、り、佛、寺、を、り、多、く、り、
よ、の、り、成、り、又、何、れ、寺、を、り、廢、寺、を、り、其、處、を、り、
と、有、り、佛、を、り、儘、多、を、り、入、れ、文武、の、教、場、を、り、在、を、り

可、多、り、邪、宗、門、の、妄、も、平日、正、道、の、凶、教、論、を、り、念、を、り、
保、任、の、法、を、り、正、を、り、教、導、の、士、大、多、を、り、命、り、邪、書、を、り、
き、邪、教、を、り、聽、き、邪、言、を、り、ま、き、我、痛、く、を、り、林、を、り、
只、今、と、佛、氏、の、徒、世、話、を、り、也、何、れ、邪、禁、嚴、密、を、り、
お、成、り、り、也、法、智、易、理、財、の、義、を、り、何、れ、所、に、儀、本、
を、り、此、物、修、業、を、り、何、れ、去、世、之、軌、の、八、故、食、貨、を、り、
列、一、周、禮、天、官、の、職、九、職、を、り、以、り、萬、民、を、り、任、り、高、賈、阜、
以、り、貨、賄、を、り、通、す、を、り、一、職、の、務、を、り、為、り、事、を、り、
の、義、を、り、先、日、の、政、事、を、り、合、り、次、を、り、重、り、事、を、り、得、能、存、

別して賞金の 師代の國用之に用ひては
も思召通し出来ぬれども是れも其の理財の
法ありては之を以て其の方敷を以て其の
以て之を以て其の西洋諸蕃貿易の利を以て國
本を立てて大畧に承知は罷在り依て思召意を以て
是より其の會計の會計の爲に其の專に西洋
の貿易理財の術を以て用ひ 其の老中楢の以て其の
掛りたる定 公或の船を以て其の定額を以て其の立
不致濟國を始の五世界に是れにして其の民に貿易し其

の出入方とて防海の以て其の外蕃の接待の以て用途に
其の元度或と奉り全世界之形勢此艘を以て其の所
防海の或と益の以て其の重きを以て其の計を以て其の
就中の軍艦の數も次第にて其の増城制の或と其の
其の改西洋諸國の如く其の國內の城を以て其の貿易道
にて 京師邊別にて 京師を以て其の國境
て互に相控援し其の有るに其の度是等のみ其の外蕃
依て其の入増も其の或の以て用途に其の年々其の或も其の
依て其の有るに其の是等の以て會計を以て其の何れも其の

界とる力務、之も又出方決して有る所なり。夫を依て愚言、是等皆外蕃因て入増、其成り用途に付其分悉く外蕃より其の得、其出方を其の償、頗有り、其の多のとも、其有申上。

公義の船、其積送り、其成り品、大凡此度、其段草より工職有り付る、其遊民の多、其成り品、其此計、其合、其成就、其多、其今天下の佛寺、四拾六万餘、宇一寺、就き一人の僧を減し、工職付る、其四拾六万餘、人の工職出て来り、二三人減し

二百三十拾万の工職出て来り、加之僧徒を、其遊民の民、其禮も有る、又正道の教諭の多、其惡徒、其臨、其刑戮を免る、其ものも有る、其等、其趣、其其業、其勉、其勵、其多、其成、其多、其世、其上、其工職の數、二百万人出て来り、其容易の我、其者、其然、其上、其力、其學、其器、其學、其興、其外、其蕃、其通、其便利の器械を制し、其人力を助け、又彼の國、其の方法、其偽、其法、其所、其工場、其開、其多、其其、其勵、其多、其其、其有、其又、其物、其產、其學、其以、其明、其、其山、其澤、其遺、其材、其收

めその出来立ち。貨物と共に船に積り、後五世界の
道高の申す。莫大の利益方。防海以外の
用途。随分の儲け。其の及ぶ儲け。益
く。国力と。其の振ふ。勉む。工様思召
通。五世界第一等の。即。強國。と。成。ん。事。年。以
數。一。つ。奉。待。致。と。好。古。去。大。事。付。早。速。と。功
能。の。收。こ。む。似。但。邪。説。亂。と。事。能。ん。の。正
理。を。持。久。の。在。り。よ。そ。の。急。慢。を。し。ん。後。に
の。在。度。ん。と。し。と。の。積。り。の。必。次。大。と。し。

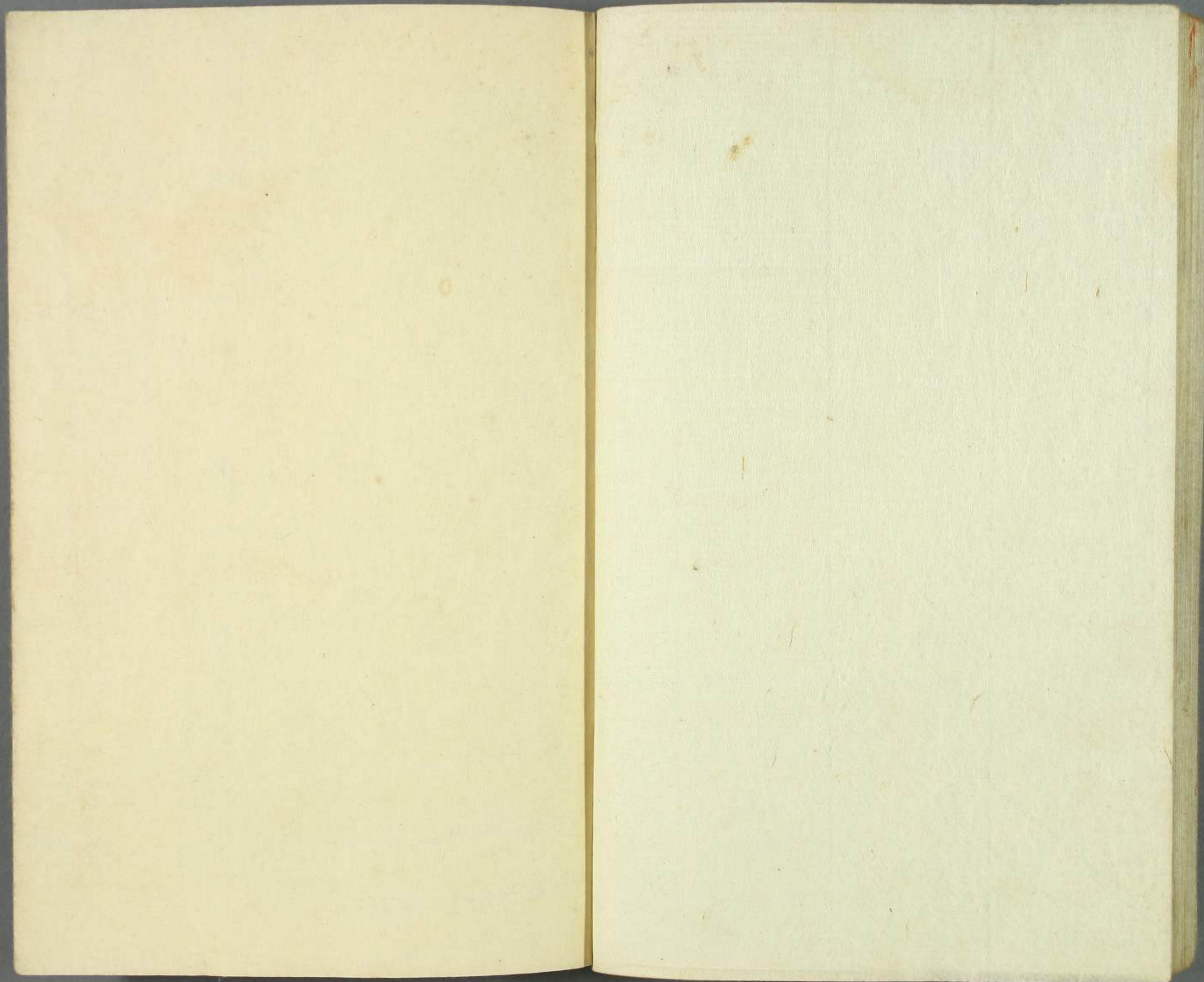
微をその積りの必に顯。之を。人。事。何。の。疑。り
ヲ。申。す。唯。の。速。功。と。不。為。望。の。持。久。者。の
之。の。規。模。致。る。為。定。と。事。の。間。安。と。事。の。此。規
模。即。ち。の。國。是。に。付。た。の。執。政。之。の。方。彼。我。度
は。為。智。と。し。の。同。類。の。所。務。有。り。他。度。の。如
尚。一。の。利。害。上。存。寄。或。は。其。の。一。二。を。舉。げ。は
下。上。物。も。其。の。他。前。案。中。上。數。付。の。當。々。に。於。て
の。事。體。の。大。小。の。事。好。存。不。願。愚。惑。上。言。は
し。の。審。察。と。の。采。用。と。成。下。の。上。下。事。是。

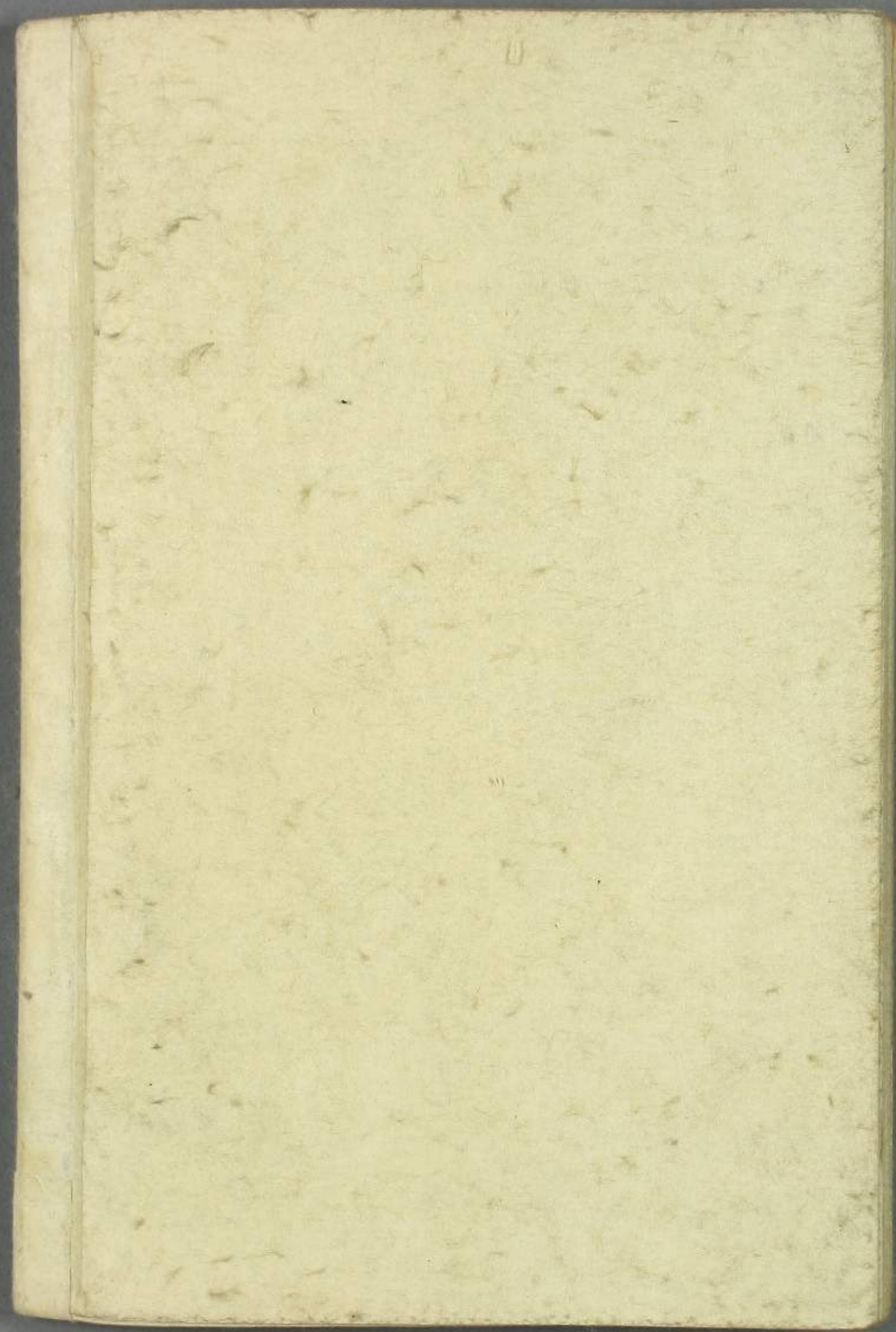
之義とて奉為以上

成九月

真田信濃守家来

佐久間修理





依久昌達白

一冊

文治三年九月幕府之上書之符
紹亨分弱 横身式分白紙九行法字
體草行交り紙紙多控五多 卷冊

特別
カ
4232

